

# 地方ブロック説明会の報告

## 生産局畜産部

平成20年10月27日

農林水産省

## ○ 地方ブロック説明会開催実績と概要

- 7月から9月にかけて地方ブロック説明会を9ブロック10カ所で開催。延べ1,435名が参加。
- 説明会の概要は、地元のテレビや新聞等で報道。

### 説明会開催実績

総参加者数  
1,435名

(内訳)

- ・消費者330名
- ・加工・流通メーカー等191名
- ・生産者・農業団体等338名
- ・地方公共団体等306名
- ・報道47名
- ・主催者223名



- ・ 札幌 7月14日(223名)  
(消費者(以下:消)22名、加工・流通メーカー等(以下:加)23名、生産者・農業団体等(以下:生)83名、地方公共団体等(以下:地)58名、報道(以下:報)3名、主催者(以下:主)34名)
- ・ 仙台 8月28日(97名)  
(消11名、加22名、生22名、地28名、報2名、主12名)
- ・ 東京 9月16日(120名)  
(消28名、加15名、生10名、地22名、報10名、主35名)
- ・ 金沢 8月5日(97名)  
(消17名、加10名、生22名、地21名、報4名、主23名)
- ・ 名古屋 7月25日(79名)  
(消25名、加13名、生23名、地6名、報3名、主9名)
- ・ 大阪 9月10日(111名)  
(消7名、加18名、生27名、地21名、報5名、主33名)
- ・ 広島 9月17日(260名)  
(消110名、加30名、生52名、地51名、報3名、主14名)
- ・ 高松 7月25日(132名)  
(消52名、加14名、生24名、地29名、報2名、主11名)
- ・ 福岡 7月15日(214名)  
(消43名、加34名、生61名、地29名、報11名、主36名)
- ・ 那覇 9月1日(102名)  
(消15名、加12名、生14名、地41名、報4名、主16名)

## ○ 出席者からの主な意見

### 札幌

- ・生産者が再生産できる適切な価格と供給量について、さらに消費者にわかるような仕組みが必要(消費者)
- ・メディア等を通して様々な形で農家の厳しい状況を消費者にご理解いただくことが重要(生産者)

### 仙台

- ・生産者の苦勞が売り場でわかる“顔の見える売り場作り”が必要(消費者)
- ・生産コスト上昇の価格転嫁が急務。安全安心には一定のコストがかかるが、これを消費者にいかんを広げていくかが重要(生産者)
- ・価格保障、所得保障等を含めた生産振興対策を考えてほしい(生産者)

### 東京

- ・流通段階で消費者に理解を求める説明が少ない(消費者)

### 金沢

- ・農家の皆さんが一生懸命やられていることがよくわかった(消費者)
- ・畜産農家はみんなギリギリの線でやっていることを消費者の方々に理解していただきたい(生産者)

### 名古屋

- ・小売価格への転嫁は、流通業者にではなく、できるだけ生産者に上昇分を還元すべき(消費者)
- ・小売価格が10円上がっても酪農家の取り分は3円。乳価は酪農家で決めることができないので、経営は厳しい(生産者)
- ・積極的に価格上昇の理由を消費者に知らせながら小売価格に転嫁することによって、食べ残しの多い日本の消費者が食べ物の大切さを見直す機会になる(消費者)

### 大阪

- ・飼料米の生産が少なすぎる。危機感を持って取り組んでいただきたい(消費者)
- ・コスト上昇分の全てを消費者に要求しているわけではない。再生産に可能な最低分だけ要求している(生産者)

### 広島

- ・国産飼料を使った国産畜産物では、国産飼料を使っているという情報発信をしてほしい(消費者)
- ・飼料用米の生産拡大を図るためには、現在の減反政策による補助金では不十分(生産者)

### 福岡

- ・畜産経営を維持継続していくためには、畜産物がそれなりに評価されて消費者価格に反映されるのが一番大事(生産者)
- ・コストが上昇している原因について消費者に理解をいただき、双方が納得のいく価格であれば、消費者も理解を示して、高くなっても買ってもらえるのではなはいか(生産者)
- ・生産現場の問題は単なる生産者のみの問題ではない。生産現場を守ることが消費者の食を守ることにつながる(消費者)

### 沖縄

- ・子供に生産現場をもっと見てもらい、生産者の苦勞を理解してもらうことが重要であり、自給率向上にもつながる(消費者)
- ・県有地、町有地の遊んでいる所を牧草確保のため有効活用すべき(生産者)